

1 関係性

- 1.1 家族
- 1.2 友情、愛情、恋愛関係
- 1.3 寛容、包摂、尊重
- 1.4 長期的な責任ある関係と子育て

学習目標 (5～8 歳)

キーアイデア：

- ・ 世界中に、たくさんの異なる種類の家族の形があります。

学習者ができるようになること：

- ▶ さまざまな家族の種類 (例：ふたり親の家族、ひとり親の家族、世帯主が子どもの家族、世帯主が後見人の家族、拡大家族、核家族、非伝統的家族) について説明する。(知識)
- ▶ さまざまな種類の家族に対する尊重を表明する。(態度)
- ▶ さまざまな種類の家族への尊重を表現する方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

- ・ 家族のメンバーには、それぞれ異なるニーズや役割があります。

学習者ができるようになること：

- ▶ 家族のメンバーのさまざまなニーズや役割を理解する。(知識)
- ▶ 家族のメンバーがさまざまな方法でお互いを大切にしていることを理解する。(態度)
- ▶ 家族の中での自分のニーズや役割を伝える。(スキル)

キーアイデア：

- ・ ジェンダー不平等は、しばしば家族のメンバーの役割と責任に反映されています。

学習者ができるようになること：

- ▶ 家族の中での男女の役割と責任の違いをリストアップする。(知識)
- ▶ その違いが、それぞれができること、できないことにどのような影響を与えるかを説明する。(知識)
- ▶ ジェンダー不平等が家族の中での役割と責任に影響を与えていることを認識する。(態度)
- ▶ 家族の中での男女の役割や責任について、自分自身の役割や感じ方を考える。(スキル)

キーアイデア：

- ・ 子どもに価値観を教える上で、家族のメンバーは重要です。

学習者ができるようになること：

- ▶ 価値観とは何かを定義する。(知識)
- ▶ 自分や家族が大切にしている価値観をリストアップする。(知識)
- ▶ 家族の価値観が子どもの価値観に影響を与えることを認める。(態度)
- ▶ 個人的な価値観を表現する。(スキル)

学習目標 (9～12 歳)

キーアイデア：

- ・親／保護者や他の家族のメンバーは、子どもが価値観を獲得するのを助け、子どもの決定を導き、支援します。

学習者ができるようになること：

- ▶親／保護者、家族のメンバーが子どもの意思決定をサポートする方法を説明する。(知識)
- ▶親／保護者、家族のメンバーが子どもの意思決定に影響を与えていることを認識する。(態度)
- ▶家族の価値観がどのように自分の意思決定の指針となっているかを考える。(スキル)

キーアイデア：

- ・家族は役割と責任を通じて、ジェンダー平等を促進することができます。

学習者ができるようになること：

- ▶家族一人ひとりの役割、権利、責任を理解する。(知識)
- ▶家族の役割と責任を通して、家族がジェンダー平等をサポートできる方法をリストアップする。(知識)
- ▶家族の中では、家族全員がジェンダー平等を推進できることを認識する。(態度)
- ▶家族内での平等な役割と責任へのサポートを表明する。(スキル)

キーアイデア：

- ・健康や病気は、家族の構成、受容力、責任のありかたの面で家族に影響を与える可能性があります。

学習者ができるようになること：

- ▶健康や病気が家族の役割や責任にどのような影響を与えるかを説明する。(知識)
- ▶健康や病気が家族の機能に影響を与えることを認識する。(態度)
- ▶病気の影響を受けた家族への共感を示す。(スキル)

学習目標 (12～15 歳)

キーアイデア：

- ・成長するということは、自分と他人に責任を持つようになることを意味します。

学習者ができるようになること：

- ▶成長に伴い、自分や他者に対する新たな責任を認識し、検討する。(知識)
- ▶成長に伴い、愛情が家族を超えて広がり、友人や仲間が特に重要になることを認識する。(態度)
- ▶新しい責任や関係性を評価し、引き受ける。(スキル)

キーアイデア：

- ・親／保護者と子どもの間には、特に思春期によく見られる葛藤や誤解がありますが、通常は解決可能です。

学習者ができるようになること：

- ▶親／保護者と子どもの間で起こりがちな葛藤や誤解をリストアップする。(知識)
- ▶親／保護者との対立や誤解を解決する方法を説明する。(知識)
- ▶親や保護者との対立や誤解は、思春期にはよくあることであり、通常は解決できることを認める。(態度)
- ▶親／保護者との葛藤や誤解を解決するための方策を考える。(スキル)

キーアイデア：

- ・愛情、協力、ジェンダー平等、相互の思いやり、相互尊重は、健康的な家族の機能と関係性のために重要です。

学習者ができるようになること：

- ▶健康的な家族機能の特徴を理解する。(知識)

- ▶なぜこれらの特性が家族の健康的な機能にとって重要なのかを説明する。(態度)
- ▶健康的な家族機能への貢献度を評価する。(スキル)

学習目標 (15~18 歳以上)

キーアイデア：

- ・ 性的関係や健康問題は家族関係に影響を与えます。

学習者ができるようになること：

- ▶家族がデリケートな情報（例：HIV 陽性であること、妊娠したこと、結婚したこと、お見合いを拒否したこと、性的虐待を受けたことがあること、幸せな性的関係にあること）を開示したとき、家族の役割や関係がどのように変化するかを評価する。(知識)
- ▶性的関係や健康に関する情報を開示したり共有したりすると、自分の役割や関係がどのように変化するかを考える。(スキル)

キーアイデア：

- ・ 性的関係や健康問題に関する情報の共有や開示に関連した課題に直面したときに、若者や家族が頼ることのできる支援システムがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶性的関係や健康に関する情報を開示したり、共有したりする若者に対して、兄弟、親、保護者、親族がどのように支援できるかを説明する。(知識)
- ▶家族がお互いを尊重しながら支え合うことで、困難を乗り越えることができることを認識する。(態度)
- ▶自分自身や支援を必要としている家族を支援するために、有効で信頼できるコミュニティの資源を利用する。(スキル)

1 関係性

- 1.1 家族
- 1.2 友情、愛情、恋愛関係
- 1.3 寛容、包摂、尊重
- 1.4 長期的な責任ある関係と子育て

学習目標 (5~8 歳)

キーアイデア：

- ・ 友人関係にはさまざまな種類があります。

学習者ができるようになること：

- ▶友だちを定義する。(知識)
- ▶友情を大切にする。(態度)
- ▶性別や障がい、健康状態などが、友だちになることを妨げるものではないことを認識する。(態度)
- ▶多様な友情を築く。(スキル)

キーアイデア：

- ・ 友情とは、信頼、共有、尊敬、共感、連帯に基づくものです。

学習者ができるようになること：

- ▶ 友情を構成する要素（例：信頼、共有、尊敬、サポート、共感、連帯感）を説明する。（知識）
- ▶ 友情を構成する要素に基づいて、友情を構築するための提案をする。（態度）
- ▶ 信頼、尊敬、理解、共有の方法を示す。（スキル）

キーアイデア：

・ 人間関係にはさまざまな種類の愛情が含まれています（例：友だちとの愛情、親との愛情、恋愛パートナーとの愛情）。愛情はたくさんのさまざまな方法で表現されます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 愛情の種類や表現方法がわかる。（知識）
- ▶ 愛情はさまざまな方法で表現できることを認識する。（態度）
- ▶ 友情の中で愛情を表現する。（スキル）

キーアイデア：

・ 健康的な関係性と不健康な関係性があります。

学習者ができるようになること：

- ▶ 健康的な人間関係と不健康な人間関係の特徴をあげる。（知識）
- ▶ いいタッチと悪いタッチを定義する。（知識）
- ▶ 健康的な友情と不健康な友情があることを認識する。（態度）
- ▶ 健康的な友情を育み、維持する。（スキル）

学習目標（9～12歳）

キーアイデア：

・ 友情と愛情は、自分を肯定的に感じられるようにしてくれます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 友情と愛情の利点をあげる。知識
- ▶ 友情と愛情は、いい気分を感じさせてくれることを認識する。（態度）
- ▶ 友情や愛情を、相手にいい気分を感じてもらえるように表現する。（スキル）

キーアイデア：

・ 友情や愛情は、子どもが思春期になるにつれて、表現のしかたが変わってきます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 成長に応じて変化する友情や愛情の表現方法について説明する。（知識）
- ▶ 友情や愛情の表現には、さまざまな方法があることを認識する。（態度）
- ▶ 成長に応じて、自分の友情や愛情の表現方法が変化することについて考える。（スキル）

キーアイデア：

・ 人間関係の不平等は、個人の人間関係に悪影響を及ぼします。

学習者ができるようになること：

- ▶ 人間関係の不平等が個人的な人間関係（例：ジェンダー、年齢、経済的立場、力の相違）にどのように影響を与えるかを探る。（知識）
- ▶ 役割をより平等にすることが、健康的な人間関係にどのように貢献できるかを分析する。（知識）
- ▶ 人間関係の平等が、健康的な人間関係の一部であることを認識する。（態度）

▶人間関係の中で平等な役割を果たすことができる。(スキル)

学習目標 (12~15 歳)

キーアイデア：

・友だちはお互いにポジティブにもネガティブにも影響を与え合うことがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶友だちがいかにお互いにポジティブな影響を与えたり、ネガティブな影響を与えたりするかを比較する。(知識)
- ▶友だちが自分の行動にポジティブな影響を与えたり、ネガティブな影響を与えたりすることを認識する。(態度)
- ▶友だちからネガティブな影響を受けないようにする方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

・さまざまな種類の人間関係があります。

学習者ができるようになること：

- ▶さまざまな種類の人間関係を見分ける。(知識)
- ▶恋愛、友情、夢中になるといった感情と、性的魅力を区別する。(知識)
- ▶親密な関係が性的なものになることもあることを議論する。(スキル)
- ▶さまざまな種類の人間関係に関連する感情を上手く扱う方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

・恋愛関係は、力の不平等や差異（例：ジェンダー、年齢、経済的立場、社会的地位、健康状態）の影響を強く受けることがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶力の不平等や差異が恋愛関係にどのようにネガティブな影響を与えるかを分析する。(知識)
- ▶ジェンダー規範やジェンダーステレオタイプが恋愛関係にどのような影響を与えるかを再認識する。(知識)
- ▶人間関係における力の不平等や差異が有害でありうることを認識する。(態度)
- ▶人間関係における力の平等やバランスに問題意識を持つ。(スキル)

学習目標 (15~18 歳以上)

キーアイデア：

・性的関係には、健康的なもの和不健康なものがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶健康的な性的関係と不健康な性的関係の特徴を比較する。(知識)
- ▶性的関係は健康的にも不健康にもなりうることを認識する。(態度)
- ▶不健康な性的関係を避けるための方法を示す。(スキル)
- ▶不健康な関係に陥った場合に、信頼できる大人を見極め、助けを求める場所へのアクセス方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

・成長に応じて、親愛や愛情を表現する方法はさまざまです。

学習者ができるようになること：

- ▶健康的な性的関係の中で親愛を表現するためのさまざまな方法を説明する。(知識)
- ▶性的行動が愛情を表現するための要件ではないことを認識する。(態度)

▶適切な方法で親愛や愛情を表現することができる。(スキル)

1 関係性

- 1.1 家族
- 1.2 友情、愛情、恋愛関係
- 1.3 寛容、包摂、尊重
- 1.4 長期的な責任ある関係と子育て

学習目標 (5～8 歳)

キーアイデア：

・すべての人間は一人ひとりが異なりそれぞれに素晴らしく、社会に貢献することができ、尊重される権利を持っている。

学習者ができるようになること：

- ▶他人を公平、平等、尊厳、尊敬の念をもって扱うことの意味を説明する。(知識)
- ▶個々の違いに関係なく、すべての人間が社会に貢献できる方法の例をあげる。(知識)
- ▶人をからかうことが有害となる例をあげる。(知識)
- ▶すべての人は個性的で価値ある存在であり、尊厳と敬意をもって扱われる権利があることを認識する。(態度)
- ▶他者に寛容さ、包摂、尊重を表現する方法を示す。(スキル)

学習目標 (9～12 歳)

キーアイデア：

・スティグマ (恥と罪の意識) や差別は有害です。

学習者ができるようになること：

- ▶スティグマと差別を定義し、それらがどのように有害であるかを識別する。(知識)
- ▶自分の中にあるスティグマ (例：沈黙、拒絶、秘密主義) とその結果について説明する。(知識)
- ▶スティグマや差別に直面している人を支援する一般的な仕組みがあることを再認識する。(知識)
- ▶他者に寛容さ、包摂、尊重を表現することが重要であると認識する。(態度)
- ▶スティグマにさらされたり、差別されたりしている人への支援を示す。(スキル)

キーアイデア：

・社会的、経済的な状況や、健康状態、あるいは民族、人種、出自、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、その他の違いを理由に、嫌がらせやいじめをすることは、失礼なことであり、傷つけることです。

学習者ができるようになること：

- ▶嫌がらせやいじめの意味を説明する。(知識)
- ▶嫌がらせやいじめが、傷つける、失礼な行為である理由を説明する。(知識)
- ▶いじめや嫌がらせに対しては、誰もが声を上げる責任があることを認識する。(態度)
- ▶嫌がらせやいじめに対抗する方法を示す。(スキル)

学習目標 (12～15 歳)

キーアイデア：

・人との違い（例：HIV、妊娠や健康の状態、経済的立場、民族、人種、出自、ジェンダー、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、その他の違い）を理由としたスティグマ（恥と罪の意識）や差別は、失礼なことであり、幸福を害し、人権侵害です。

学習者ができるようになること：

- ▶ スティグマ、差別、偏見、先入観、不寛容、排除の概念を再認識する。(知識)
- ▶ スティグマや差別が、人々の性と生殖に関する健康と権利に及ぼす影響を検討する。(知識)
- ▶ すべての人が、スティグマや差別を受けている人を守る責任があることを認識する。(態度)
- ▶ 包摂、非差別、多様性の重要性を理解する。(態度)
- ▶ スティグマや差別に直面した場合、支援を探し出す。(スキル)
- ▶ 包摂、非差別、多様性の尊重のために声を上げる。(スキル)

学習目標（15～18歳以上）

キーアイデア：

・スティグマ（恥と罪の意識）や差別に挑み、包摂、非差別、多様性を促進することが重要です。

学習者ができるようになること：

- ▶ スティグマや差別が、個人やコミュニティ、社会にどのような影響を与えているのかを分析する。(知識)
- ▶ スティグマや差別に反対する既存の法律をまとめる。(知識)
- ▶ 「区別」と思われている差別に挑むことの重要性を認識する。(態度)
- ▶ 排除されている人々への支援を表現する。(スキル)
- ▶ スティグマや差別に反対し、包摂、非差別、多様性の尊重のために声を上げる。(スキル)

1 関係性

- 1.1 家族
- 1.2 友情、愛情、恋愛関係
- 1.3 寛容、包摂、尊重
- 1.4 長期的な責任ある関係と子育て

学習目標（5～8歳）

キーアイデア：

・家族構成や結婚の概念はさまざまです。

学習者ができるようになること：

- ▶ 「家族」と「結婚」の概念を説明する。(知識)
- ▶ 結婚するためのさまざまな方法（例：結婚相手を選ぶ、あるいはお見合い結婚をする）をあげる。(知識)
- ▶ 別居、離婚、死別で終わりを迎える結婚もあることを再認識する。(知識)
- ▶ 家族構成や結婚のしかたが異なっても、それぞれが価値のあるものであることを認識する。(態度)

学習目標（9～12歳）

キーアイデア：

- ・児童婚・早期婚・強制婚（CEFM）は有害であり、大多数の国で違法です。

学習者ができるようになること：

- ▶CEFM の定義を知る。(知識)
- ▶CEFM が子ども、家族、社会に与える悪影響をリストアップする。(知識)
- ▶CEFM が有害であることを認める。(態度)
- ▶CEFM のリスクがある場合に相談できる、親／保護者や信頼できる大人を明確にする。(スキル)

キーアイデア：

- ・長期の責任ある関係、結婚、子育ては社会、宗教、文化、法律によってさまざまであり、かつこれらによって形づくられている。

学習者ができるようになること：

- ▶長期の関係性、結婚、子育ての重要な特徴をあげる。(知識)
- ▶文化、宗教、社会、法律が長期的な関係性、結婚、子育てにどのような影響を与えるかを説明する。(知識)
- ▶すべての人が、いつ、誰と結婚するのか、しないのかを決定できるべきであると認める。(態度)
- ▶長期の関係性、結婚、子育てについて自分の意見を表現する。(スキル)

キーアイデア：

- ・文化やジェンダー役割が子育てに強い影響を与える。

学習者ができるようになること：

- ▶文化やジェンダー役割が子育てにどのように強い影響を与えるかを議論する。(知識)
- ▶いい親であるとはどういうことかについて、自分の価値観や信念について考える。(スキル)

学習目標（12～15 歳）

キーアイデア：

- ・結婚と長期の責任ある関係性には、多くの責任が伴う。

学習者ができるようになること：

- ▶結婚と長期の関係性の主な責任をまとめる。(知識)
- ▶上手くいった結婚や長期の関係性の主な特徴を再認識する。(知識)
- ▶結婚や長期の関係性における愛情、寛容、平等、尊重の重要性を認識する。(態度)

キーアイデア：

- ・人はさまざまな形で親になり、親になることはたくさんのさまざまな責任を伴う。

学習者ができるようになること：

- ▶親の責任を列挙する。(知識)
- ▶大人が親になりうるさまざまな方法（例：意図的な妊娠と意図しない妊娠、養子縁組、里親、生殖医療の利用、代理出産）を比較する。(知識)
- ▶親になるかどうか、なるならいつなるかについて、障がいのある人や HIV と共に生きる人も含めて、それが制限になることなく、誰もが自分で決めるべきだと主張する。(態度)

キーアイデア：

- ・児童婚・早期婚・強制婚（CEFM）、意図せずに親になることは、社会的にも健康的にもネガティブな影響を与える可能性があります。

学習者ができるようになること：

- ▶CEFM や意図せずに親になることの社会的・健康的な結果について説明する。(知識)
- ▶CEFM や意図せずに親になることは有害であることを認識する。(態度)
- ▶CEFM や意図せずに親になることに不安を感じた場合、支援を探し出す。(スキル)

学習目標 (15～18 歳以上)

キーアイデア：

- ・ 結婚や長期の責任ある関係性は、やりがいのあるものでも困難なものでもあり得ます。

学習者ができるようになること：

- ▶結婚と長期の関係性のもたらすやりがいと困難を評価する。(スキル)
- ▶親には継続的な教育への権利があることを認識する。(態度)

キーアイデア：

- ・ 子どもを持つかどうか、なぜ、いつ持つかの決定には、多くの要因が影響している。

学習者ができるようになること：

- ▶子どもを持つ、持たないを決めるさまざまな理由を説明する。(知識)
- ▶ジェンダー、HIV の状態、性的指向、ジェンダーアイデンティティに関係なく、誰もが親になれることを認識する。(態度)
- ▶親になりたい人もいれば、なりたくない人もいること、誰もが親になれるわけではないこと、親になりたいまま親になってしまった人もいることを認識する。(態度)
- ▶子どもを持つかどうか、その理由や時期について、自分の意見に強い影響を与える要因を批判的に評価する。(スキル)

キーアイデア：

- ・ 親／保護者が責任を持って満たすべきさまざまなニーズを、子どもは持っています。

学習者ができるようになること：

- ▶子どもの身体的、情緒的、経済的、健康的、教育的な面での重要なニーズと、それに関連した親の責任を分類する。(知識)
- ▶人間関係の難しさが子どもの幸福に影響を与えることを説明する。(知識)
- ▶子育てにおける健康的な人間関係の重要性を認識する。(態度)
- ▶自分たちの身体的、感情的、経済的、教育的なニーズを親／保護者に伝える。(スキル)